

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:52.

壮年期にある膵臓癌患者が希望を実現するまでの過程と看護支援

久保 百合香, 田中 美沙紀, 真下 彩音

壮年期にある膵臓癌患者が希望を実現するまでの過程と看護支援

キーワード：希望実現、死の受容、膵臓癌、壮年期、終末期

○発表者名・共同研究者名 ○久保百合香、田中美沙紀、真下彩音

所属施設名：旭川医科大学病院 6階西ナーステーション

I. 目的

壮年期にある膵臓癌患者が病状を受け入れ、自分の残された時間を意識し自身の希望を実現するまでの過程を明らかにし、今後の看護の示唆を得る。

II. 方法

(1) 研究の種類・デザイン：後ろ向き事例研究

(2) 対象者：膵臓癌の進行に伴う症状改善のためA病院に入院となった50代の患者B氏。

(3) 研究期間：20XX年1月～3月

(4) データ収集・分析方法：看護記録のB氏の言動に関わるデータを抽出した後、コード化しサブカテゴリー、カテゴリーに分類した。

III. 倫理的配慮

対象者は既に死亡しており、ご遺族の心理を考慮し家族の同意は得ず、研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得て実施した。個人が特定される情報は削除した。

IV. 結果

80の「コード」、22の《サブカテゴリー》、5の【カテゴリー】を抽出した。《回復への期待》《症状をコントロールしたい気持ち》《病気をコントロールできないかもしれない事への不安》《社会復帰への意識》から【回復への期待】を構成した。《同室者への期待と怒り》《1人の人として自分を見てほしい気持ち》《怒りの感情と看護師への指導的な言動》から【怒りの感情が同室者や看護師に向けられる】を構成した。《夫、父親としての役割》《死の予感に対する不安》《喪失体験》から【喪失体験と不安】を構成した。《死の受容と死を受け入れたくない気持ちの混在》《死の直面と受容》《人生の価値づけ》《自分らしさの確認》《治療や療養の上で医療者を頼る気持ち》《仲間を大切にする気持ち》《死後の準備》から【人との関わりの中で人生を振り返り、死を受け入れていく】を構成した。《生きた証を残したい》《基本的ニードとしての希望》《区切りをつけるための希望》《希望の実現》《限られた時間を自覚し、焦る気持ち》から【自分で希望を見出し実現していく】を構成した。

V. 考察

B氏は、入院当初【回復への期待】があり、【怒りの感情が同室者や看護師に向けられ】ていた。特に看護

師に対しては単に怒りを表出するのではなく、看護師を育てようという意図も読み取れ、B氏が管理職として社会的役割を果たしてきた事に起因すると考える。

B氏は身体症状が進み、【喪失体験と不安】を抱え死の受容と死を受け入れたくない気持ちが交錯していた。しかし、葛藤しながらも【人との関わりの中で人生を振り返り、死を受け入れ】死後の準備も行っていった。

B氏はどの過程でも【自分で希望を見出し実現していく】事を続けた。それは、現状を良くしたいという基本的ニードとしての希望、自分の人生に区切りをつけるための希望、時には自分の生きた証を残すための希望であった。キューブラー・ロス¹⁾は、死を迎えるどの段階にある患者も希望を持ち続けている事を論じている。特にB氏は、他者との関わりから自分の存在意義を再確認し、残された時間で生きた証を残す方法を考えていた。B氏にとって希望実現で得た達成感は、その次の希望を支え生きる意味となっていたと考える。また死の間際には、家族等に依頼できるものよりも自分にしかできない事の希望の優先順位が高まっていた。

膵臓癌は早期発見が難しく、予後不良である。B氏も残された時間の短さを自覚し希望の実現に向けて焦る気持ちが生じていた。看護師は、患者の限られた時間の中で時期を逃さないよう患者の希望が実現できるように調整する必要があると考える。また、B氏に対して毎日マッサージを提供していた事で信頼関係が構築され、早期にB氏の本音を引き出す事に繋がった。看護師は患者に常に関心を向け、患者と共に時間を過ごし傍に寄り添う存在を提供する必要があると考える。

VI. 結論

1. 壮年期膵臓癌患者が病状を受け入れ、自分の残された時間を意識し自身の希望を実現するまでの過程は、【回復への期待】【怒りの感情が同室者や看護師に向けられる】【喪失体験と不安】【人との関わりの中で人生を振り返り、死を受け入れていく】【自分で希望を見出し実現していく】を行き来しながら辿っていた。
2. 看護師は、患者の傍に寄り添う事で死の受容を促進し、限られた時間の中で時期を逃さないよう患者の希望に耳を傾け、調整する必要がある。

引用文献 1) E・キューブラー・ロス：死ぬ瞬間 死とその過程について、読売新聞東京本社、p59-228, 2011